



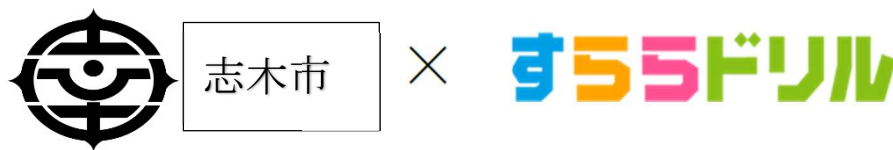
NEWS RELEASE

株式会社 すららネット
2026年5月15日

朝霞市、ふじみ野市に続き、東武東上線沿線で拡大中 埼玉県志木市の小中学校に「すららドリル」導入 小中学校全 12 校の児童生徒約 5,800 人が利用開始

AI を活用したアダプティブな対話式 ICT 教材の開発と提供を行う株式会社すららネット（本社：東京都千代田区、代表取締役：湯野川孝彦）が提供する「すららドリル」が、2026年4月より埼玉県志木市内の全市立小中学校において新たに導入されました。これにより、約5,800人の児童生徒が利用を開始しています。

志木市全体での導入を通じて、一人ひとりの理解度に応じた個別最適な学びの実現と、教育の質の向上を目指します。



志木市では、家庭学習においても児童生徒が主体的に取り組める点や、学習ログを活用することで一人ひとりのつまずきや変化を早期に捉えられる点が評価され、今回の導入に至りました。埼玉県内では、すでに朝霞市とふじみ野市でも市内の小中学校で「すららドリル」の活用が進んでおり、東武東上線沿線を中心に、「すららドリル」を活用した学びが広がりを見せています。

「すららドリル」は、AI が学習履歴をもとに最適な問題を出題し、基礎からスモールステップで学力を定着させるため、日常的な学びの質を高める教材として期待されています。約 20 万問の豊富な問題群や弱点診断、アニメーションレクチャー、自動採点機能により、児童は「できた」「わかった」という実感を積み重ねながら自信を育み、主体的・自律的な学習習慣の定着も期待できます。

また、課題配信や採点業務の自動化、進捗状況の可視化といった機能によって教員の業務負担を軽減し、児童と向き合う時間の確保にも貢献します。

すららネットは今後も、志木市教育委員会と連携し、「次代を担うたくましい志木っ子」の育成に向けて、「すららドリル」の活用を通じた学びの充実に貢献してまいります。

■AI×アダプティブラーニング教材「すららドリル」

「すららドリル」は、公立小中学校向けの AI ドリル教材で、児童生徒一人ひとりの理解度に応じたアダプティブな学習を提供します。AI による「つまずき診断」や「出題難易度コントロール」により、国語・算数／数学・英語・理科・社会の 5 教科を、学年を越えて柔軟に学ぶことができます。教材はドリル、テスト、対話式レクチャーの 3 機能で構成され、「演習→確認→復習」のサイクルで無理なく学力の定着を図ります。また、テストの自動作問・採点、自動復習登録機能により、教員の負担も軽減します。

「すららドリル」は、多様な学習スタイルに応じた指導が可能で、児童生徒の主体的な学びと教員の指導の質向上を同時にサポートします。

■株式会社すららネット

すららネットは、「教育に変革を、子どもたちに生きる力を。」を企業理念に掲げ、AI を活用したアダプティブな対話式 ICT 教材「すらら」「すららドリル」などを開発・提供しています。現在、国内の 3,100 校以上の学校や学習塾で導入され、約 26 万人の児童生徒が利用しています。全国の公立学校や有名私立学校、大手塾での活用が広がる一方、不登校や発達障がい、経済的困難な状況の子どもたちにも学習機会を届けることで、教育課題の解決に取り組んでいます。2017 年には、代表的な EdTech スタートアップ企業として東証マザーズ市場（現東証グロース市場）に上場しました。

- ・コーポレートサイト <https://surala.co.jp/>
- ・サービスサイト <https://surala.jp/>